

施策番号	2001		
施策名	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化		
概要	市内で運行する交通事業者等の連携によるネットワークを構築し、さらなる鉄道、バスの利便性向上策などを実施するとともに、バリアフリー化の推進、公共交通不便地域や観光シーズンにおける交通対策の強化などを実施する。		
担当局・部室	都市計画局・歩くまち京都推進室	共管局・部室	
上位政策	20 歩くまち		
施策に関する主な分野別計画等	「歩くまち・京都」総合交通戦略		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	26年度	27年度	28年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト	
1 バリアフリー事業に着手した地区数の割合(%)	a	a	95.7	95.7	95.7	100.0%	a	1.00	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度	27年度	28年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 京都での移動には、公共交通が便利である。	b	b	122	167	105	58	58	510	b
			23.9%	32.7%	20.6%	11.4%	11.4%		
2 -	-	-							-
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
		b	b	市民生活実感調査総合評価				b	

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					27 年度	B
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	a	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	b		
<p>(重み付けの理由) この施策は、市民生活における公共交通に対する満足感を高めることが目的であるので、市民生活実感評価を重視する。</p>						26 年度	B
<p>(原因分析) 客観指標総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。</p>							
<p>(原因分析)市民生活実感調査総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。</p>							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	鉄道軌道安全輸送設備等整備事業費補助	69,621	70,088	良い	都市計画局
2	地方バス路線維持に係る補助金	1,932	8,595	かなり良い	都市計画局
3	京北ふるさとバスの運行補助	51,963	56,381	良い	都市計画局
4	リニア・北陸新幹線の誘致推進	26,661	28,324	良い	総合企画局
5	京都未来交通イノベーション研究機構の運営	13,629	12,900	良い	都市計画局
6	関西国際空港全体構想の推進	1,252	1,331	—	都市計画局
7	近畿圏総合交通体系調査	15,204	12,736	—	都市計画局
8	JR奈良線複線化第二期事業	1,251	615	—	都市計画局
9	鉄道施設安全対策事業	1,881	21,631	—	都市計画局
10	「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進	970,659	634,824	—	都市計画局
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・バリアフリー化を推進し、公共交通の利用を進めるため、平成28年度は新たに嵯峨嵐山駅（JR西日本）及び向島駅（近鉄）の内方線付き点状ブロック整備工事に着手するとともに、西大路地区において移動等円滑化基本構想を策定する。

・また、交通事業者等との連携による公共交通利便性向上施策、ネットワークの構築等を実施し、京都に住まい、また京都を訪れる全ての人が、安心、安全、かつ、快適、便利に利用できる公共交通を構築する。

施策名	2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化
-----	------	------------------------------

指標名	バリアフリー事業に着手した地区数の割合（％）
-----	------------------------

担当課	歩くまち京都推進室	連絡先	2 2 2 - 3 4 8 3
-----	-----------	-----	-----------------

1 指標の説明

平成14年10月に策定した「京都市交通バリアフリー全体構想」及び平成24年3月に策定した「「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」で選定した23の重点整備地区のうち、「移動等円滑化基本構想」の策定に着手した地区の割合

2 指標の意味

すべての人にやさしい駅として、バリアフリー化される施設整備の進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：「移動等円滑化基本構想」の策定着手地区数 ÷ 重点整備地区数 × 100

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	95.7	95.7	-	95.7	平成30年度の目標達成のために当該年度に達成すべき数値	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		100.0%	30年度	95.7%	重点整備地区(23)のうち、「移動等円滑化基本構想」の策定に着手した地区の割合

備考	京プラン実施計画第2ステージに基づき新たな目標値等に変更
----	------------------------------

5 評価基準

単年度目標値に対する達成度が
a : 100%以上
b : 75%以上100%未満
c : 50%以上75%未満
d : 25%以上50%未満
e : 25%未満

6 基準説明

単年度目標値に対する達成度が100%以上をaとし、以下25%単位で基準設定した。

7 評価結果

26	27	28
a	a	a